

Global Network 海外ビジネススクールとのつながり

ABSは、経済・社会のグローバル化が進む中で企業経営をリードできる経営プロフェッショナル人材の養成を目標に掲げ、海外ビジネススクールと次のような様々な接点とかたちで交流を行うなど国際性豊かなカリキュラムを提供しています。

海外ビジネススクールの教授陣による講義・セミナー

海外のビジネスや学術研究の最新の実情や動向について、海外の大学から専門の教授陣を招き、講義頂くことで、グローバル化人材の育成を目的としています。



クリスチャン・フランケル准教授:コペンハーゲン・ビジネススクール(デンマーク)【右】
マーティン・コルンバーガー教授:エジンバラ・ビジネススクール(イギリス)【中央】



ホセ・オサンドン准教授:コペンハーゲン・ビジネススクール(デンマーク)【手前】
トマス・アリツィア准教授:ディエゴ・ポルタレス大学(チリ)【奥】



トマス・ドマンスキー教授:ロツズ大学(ポーランド)



Noor Ismawati教授:マラヤ大学ビジネススクール(マレーシア)



写真中央左から シーン・レヴィン准教授:
テキサス大学ダラス校(アメリカ)、
フランク・コショフ教授:
トゥールーズ大学ジャン・ジョレ校(フランス)、
マーティン・スクリッドストラップ准教授:
コペンハーゲン・ビジネススクール(デンマーク)

交流プログラム

「海外研修セミナー」として海外のビジネススクールを訪問したり、海外からビジネススクールの教員・学生を受け入れ、活発に交流を図っています。



海外研修セミナー/タマサート大学ビジネススクール(タイ)への訪問



在学生の活動

ABSの在学生の活躍をご紹介します。コンペティションへの参加や研究発表など、積極的に活動を行っています。

JBCC2022でABSの2チームが躍動

「日本ビジネススクール・ケース・コンペティション 2022」(JBCC2022)において、予選を通過したABSの伊藤チーム、巖谷チームが12月4日の本選でプレゼンテーションを行いました。

JBCC2022は、全国25校のビジネススクールから153チーム711名が参加、20チームが本選に進出しました。ABSからは11チームが参加し、伊藤チームと巖谷チームの2チームが本選に進みました。巖谷チームはセミファイナルで高評価を得てグランドファイナルまで勝ち残り、さらにグランドファイナルで優勝しました。



「ハウステンボス」のSDGs／サーキュラーエコノミーに関する事例研究の成果を発表

「SDGsコミュニティ・マーケティング」2022年度受講生メンバーが、授業を通じて行った「ハウステンボス」(長崎県佐世保市)のSDGs／サーキュラーエコノミーに関する事例研究の成果を発表しました。

研究発表会場を「都道府県会館」(千代田区平河町)としたことで、長崎県をはじめとする地方行政関係の方々に参加いただき、発表後の質疑も活発で、大変有意義な発表機会となりました。

CVG東京大会で 関東経済産業局長賞を受賞

2022年12月1日、「第19回キャンパス・ベンチャー・グランプリ東京大会」(CVG東京大会)において、予選を勝ち抜いた青山ビジネススクールの中森チームがファイナル審査会に臨みプレゼンテーションを行いました。ファイナル審査会で中森チームは第2位に選出され「関東経済産業局長賞」を受賞しました。



その他の「在学生の活動」は、ウェブサイトにてご覧ください。

<https://www.aoyamabs.jp/campuslife/activity.html>

Creative Leader 創造的リーダー

ABSでマネジメント能力を身につけた修了生は、さまざまな分野で活躍しています。ABSが輩出した創造的リーダーをご紹介します。

森川 亮 さん 1999年修了 C Channel株式会社 代表取締役社長



1989年に筑波大学を卒業し、日本テレビに入社。システム部門配属後、新規事業プロジェクトを中心に幅広いメディア事業に携わる。勤務しながらABSで学び、1999年に修了。ソニーを経て、2003年にハンゲームジャパン(現LINE)に入社し、事業部長、取締役、副社長を経て、2007年に代表取締役社長に就任。2015年3月、同社代表取締役社長を退任。同年4月、C Channel株式会社代表取締役社長に就任。

ABSで練った事業案を今、現実に

LINEの代表取締役を退任し、若い女性向けのメディア事業を始めました。実は、この事業はABSに在学しているときに考えていたことなのです。当時、ドメスティックなテレビ局に勤務していた私は、グローバルなメディアを作りたいと思っていました。経営戦略の授業などでは、グローバル企業が取り上げられることが多く、それらの学びを土台にして、事業計画を練り上げました。修了後すぐには事業化しませんでした。ソニーとLINEにおける業務経験を経て、より洗練された今の事業形態に昇華しています。

C Channelでの私の経営スタイルは、ABSで学んだ経営知識に、実際に経験してきた日本型経営と外資系型経営をミックスさせたものになっています。それぞれの良いところをバランスさせて、変化の速い経営環境に素早く対応できるようにしています。

このようにABSでの学びは、現在の私の経営手法に直接的にも間接的にも大きく影響を与えています。

白水 美樹 さん 2006年度イブニングコース*修了 レオス・キャピタルワークス株式会社 常務取締役 総合企画本部本部長



第一証券(現 三菱UFJモルガン・スタンレー証券)にて株式トレーダー、ソニー生命保険を経て、DLJdirectSFG証券(現 楽天証券)の創業より勤務。カスタマーサービス部長、経営企画部とサービスから企画・管理まで幅広くインターネット証券業務に携わる。勤務しながらABSで学び、2007年3月修了。2008年レオス・キャピタルワークス入社。常務取締役 総合企画本部本部長(現職)。

ABSで経営の言語を得る

資産運用会社の取締役として経営全般にかかわるようになって、ABSで幅広い知識を学んでおいてよかったと改めて感じています。MBAに挑戦したのは、その頃部下の管理に悩んでいて、組織マネジメントを習得したかったからです。しかし、それだけに絞り込まず、ファイナンスや経営戦略なども総合的に学んだことが、今につながっています。

ABSでは、まず経営について語る言語と思考を手に入れたと思っています。たんに経営用語を知るだけではなく、その背景にある理論や関連するフレームワークを理解していたほうが、メンバー同士の共通認識を深めやすく、コミュニケーションツールとして役立ちました。

また、ABSは女性の仲間が多かったことも心強かったです。会社では女性の管理職としての期待も寄せられていたこともあり「自分が後輩のロールモデルにならなければ」と無意識のうちに肩に力が入っていた気がします。そんなとき、ABSの仲間との交流で、他社での女性の働き方や労働環境などの情報交換をする機会があったことが自分にとっても有益な場所でもありました。

* 2021年度より「フレックス・タイムコース」から「イブニングコース」に名称変更

キャリアデザイン

さまざまな学びの動機や目的でABSに入学し、2年間で多くを学修し、修了後にそれぞれの分野で活躍する方々をご紹介します。どういう意識で学修し、ABSでの学びを今のキャリアに活かしているかなど、あなたのキャリアデザインの参考にしてください。

》キャリアアップ／昇進

本田 恵美里 さん 製薬会社勤務

2018年度イブニングコース(旧フレックス・タイムコース)*修了

本田恵美里さんは、社内の専門業務から担当変更で業務範囲が高まり、それまでの実務経験だけでは太刀打ちできないと感じ、ビジネススクールに進学したケースです。

本田さんご自身は「理系出身でこれまでは全く関わったことのない分野の科目が多く、課題やグループワークなどの時間のやりくりも大変でした」と語りますが、家族の協力もあり、2年間の課程を見事に修了しました。

学生生活を通じて、「学ぶということは、知識をつけていくというよりは、自分が知らないことがある、ということを確認していくこと」だと感じています。本田さんは、学生幹事会活動や「ABS Gathering」という学生自主運営の勉強会などに積極的に携わって、多くのクラスメートに出会い、「彼らの有能さにほれほれしつつ」と一緒に学べることの幸せをかみしめています。



》キャリアチェンジ／転職

早川 康一 さん 総合商社勤務

2018年度イブニングコース(旧フレックス・タイムコース)*修了

早川康一さんは、食品メーカーの海外勤務を終えて帰国した時点でABSに入学し、在学中に経営コンサルティングファーム、さらに現在の総合商社に転職し、食料分野における事業投資の仕事をしています。

ABSの2年間を振り返ると、「共に過ごしたバックグラウンドの異なる多くの友人との出会いが最も大きな収穫だった」と考えています。個性豊かで志の高い仲間との交流からは、「いつも様々な気づきを得ることができ、自分の世界観を改める機会にもなった」そうです。

早川さん自身「まだまだ模索中の身であり、正解を持ち合わせていません」と語りますが、「自分なりに将来どの様な仕事を通じて社会に貢献したいか、そしてそのために今できる事は何かを一生懸命に考え続けてきたことが、多くの人との出会いにつながり、ターニングポイントを生むきっかけになったのではないかと振り返っています。

》起業

坂本 雅志 さん 株式会社スマートウィル

2011年度デイトムコース(旧フル・タイムコース)*修了

坂本雅志さんは、30代後半に、投資ファンドから被買収企業の経営陣として参画した際に、これまでの経営知識・経験の棚卸し、新たなインプットの必要性を感じABSに入学しました。そして、「CRM」(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)の領域でのコンサルティング会社を起業しました。現在、①ビッグデータ活用コンサルティング、②顧客インサイトマーケティング、③コミュニケーションデザインを3本柱に事業展開しています。

またABSのMBA科目「CRM戦略」を非常勤講師として担当しています。

今後の起業に備えABSに進学しようとする方へのメッセージとして、坂本さんは、「学位取得目的でなく、あらゆる可能性を見出すことを念頭に、自分自身がこれから大事にするであろう『何か』を得るために、夢中になって暗中模索する2年間で過ごしていただきたい」と語っています。



※ 2021年度より「フレックス・タイムコース」から「イブニングコース」に、「フル・タイムコース」から「デイトムコース」に名称変更

》事業継承

渡辺 悠太 さん 渡辺産業株式会社

2010年度イブニングコース(旧フレックス・タイムコース)*修了

渡辺悠太さんは、父親が経営する英国ファッションブランドの輸入総代理店卸・小売事業を行う会社の事業を、代表取締役という立場で、継承しています。ABSへの進学もその準備のため、経営をしっかりと学ぶことが主眼でした。入学当時は、「ビジネスに関する知識がない真っ新な状態」であったが、「全ての授業が面白く、新しい気づきと発見の連続で」「実際ABSで学んだことを直ぐに実務で試せて」学ぶ楽しさを実感しながら、能力を高めたそうです。

特に「ビジネス・プランニング」を履修し、東京都ビジネスプランコンテストでの優勝を果たし、チームワークでの学びも多く得て、それらを現在の企業経営で生かしているということです。「ファミリー・ビジネスこそ革新を」と、社内事業部の推進、英国パートナーとのコミュニケーション、新規事業などに取り組んでいます。



》デイトムコース修了生の活躍

椿 竜太郎 さん 株式会社ベйкаレント・コンサルティング

2014年度デイトムコース(旧フル・タイムコース)*修了

椿竜太郎さんは大学卒業直後にABSデイトムコース*に入学し、修了後は経営コンサルティングファームに就職しました。椿さんは入社後に大企業の戦略立案から業務改善、ITプロジェクトの実行支援まで経験しました。現在はDX(デジタル・トランスフォーメーション)の案件を中心に顧客の市場調査から事業戦略立案を担当しています。

ABSでは企業経営の基礎科目で知識を身につけ、さらにゼミ演習科目で専門分野を深めました。入学当初は新卒学生として発言も躊躇しましたが、「知らないことが強み」と思いなおし、積極的にイブニングコース*の方々との議論に混ざってきました。また、デイトムコース*は留学生も多く、異文化理解も含めた交流も貴重な経験でした。ABSは、「バックグラウンドや世代、業界が異なる人々との交流から多くの学びを得て、一生の繋がりを持てた」と振り返っています。

》海外での活躍

平田 周二 さん ベカメックス東急有限会社(ベトナム)

2010年度イブニングコース(旧フレックス・タイムコース)*修了

平田周二さんは、東京急行電鉄株式会社リテール事業部勤務時代にABSで学び、修了後、同社のベトナムでの新事業、ホーチミン市近郊のビンズン省での都市開発事業を社内提案し、現地に赴任しています。この事業は1,000ha規模を誇る住宅・商業・交通などの複合による大型街づくりプロジェクトで、平田さんは当初からベトナム・日本・アジア諸国の企業と様々な連携するリーダー役を担っています。

ABSの学びの中でも、とりわけ「マネジメント・ゲーム」授業で社長業を体験して得た、「①国境・国籍を越えたチームマネジメント力、②コミットメントへの達成意欲、③必要な情報の収集と判断力、が現在の業務での自信につながっている」と語っています。成長著しいアジアのビジネス最前線で働き、共に成長するすばらしさを実感する平田さんのご活躍に期待しています。



その他の「キャリアデザイン」は、ウェブサイトにてご覧ください。
https://www.aoyamabs.jp/message/voice_highstage.html